異都憧憬：巴里の日本人からの絵葉書

山形　宏之 (P-194601・埼玉)

100年前の日本人にとっても憧れだった「花の都巴里」。彼の地から日本人が差し出した絵葉書をご紹介します。

洋画家、仏文学者、帝国軍人、外交官、医療従事者など。日本人が「１００年前のパリ」を舞台に活躍する姿に思いを馳せられればと思います。

現代装飾美術・産業美術国際博覧会

（通称「アール・デコ博覧会」）（1925 年）

25 年ぶりにパリで開催された万国博覧会。アール・デコ様式の名前の由来になった。

日本館（設計：山田七五郎、宮本岩吉）

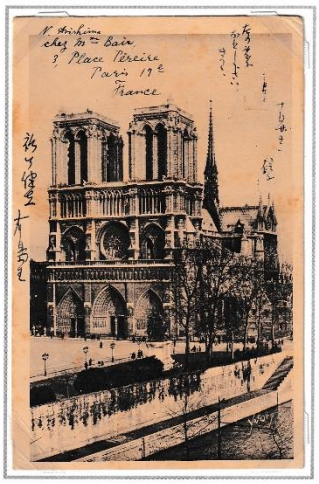
日本式茶室

有島生馬

洋画家、小説家

（1882 年～1974 年）

武者小路実篤、志賀直哉らと『白樺』を創刊。
有島武郎の実弟、里見弴の実兄、妻は信子。



1928 年 10 月 25 日　パリ→兵庫県

森芳雄

洋画家（1908 年～1997 年）

1931 年 8 月 31 日　パリ→東京 世田谷経堂

其後　元気ですか。僕は、この二十六日に久しぶりで又パリに来ました。
これから当分はパリで落付かねばいけないです。十月にはアトリエに入れるのです。楽しみですよ。
○○兄からはよく手紙を戴く。飛行機なら、実に僅かな時間で行けるところに居られるのです。兄も九月中旬から十月上旬迄居られる様だから、僕のアトリエも見て行かれると思う。兄ももう早く日本に帰られたい様な気持ちではないかと思ひます。もう外国の生活も沢山の様に僕への手紙には書いてありました
よ。では○○さんによろしく。　　八月三十日　パリの下宿にて　芳雄